

4 農業振興事務所との共同調査

1) 水稻ヨコバイ類発生実態調査

(1) 目的

平成17年産県南水稻普通植地帯において収量等の低下が見られ、その一因はヨコバイ類によるものと考えられた。そこで、ヨコバイ類に対する箱施用剤の効果と比較するため、関係機関と連携して使用した箱施用剤が異なるほ場のヨコバイ類発生量を調査する。

(2) 方法

調査地域 下都賀農業振興事務所管内

小山市松沼 現地農家水田

品種：あさひの夢

耕種概要等

<区の名称（使用した箱施用剤 - 移植期、出穂期、ツマグロヨコバイ への適用の有無（平成21年6月1日現在））>

ア.プリンス区 - 1 (フジワンプリンス粒剤 - 6月9日、8月25日、無)

イ.ダントツ区 - 1 (ダントツ箱粒剤 - - - - 6月9日、8月26日、有)

ウ.プリンス区 - 2 (プリンス粒剤 - - - - 6月7日、8月24日、無)

エ.ダントツ区 - 2 (ダントツ箱粒剤 - - - - 6月7日、8月25日、有)

オ.ダントツ区 - 3 (ダントツ箱粒剤 - - - - 6月16日、8月27日、有)

カ.無防除区 - 3 (箱施用剤使用せず - - - 6月16日、8月27日)

本田防除（殺虫剤）：ア、イ、オ、カは無防除 ウ、エは8月2日にE P N乳剤を散布（同じ数字は管理者が同じ事を示す。オ、カは農作物適用農薬調査を実施したほ場。）

使用した箱施用剤、本田防除剤共にイナズマヨコバイに適用のある薬剤は無い。

調査期間

7月14日（移植後30日頃）から成熟期頃まで（約10日間隔）

生息密度調査法

ア.すくい取り法

柄の長さ1m、口径36cmの捕虫網を半径1mの扇形に虫の発生量に応じて10~20回振りすくい取りを行った。すくい取りは1区につき3か所実施した。

イ.払い落とし法

B5版の黒色プラスチック板に防虫粘着剤フジタングルを15×20cmの面積に塗布した粘着板を調査に用いた。粘着板は稲の生育に応じて水面1~15cmまでの高さで株と垂直に保持し、10株の株元を5回はたいて虫を払い落とした。払い落としは1区につき3反復実施した。

(3) 結果及び考察

ツマグロヨコバイ、イナズマヨコバイの発生量は7月~8月中旬までは少なく、8月末~9月以降に増加した。ツマグロヨコバイ発生量はダントツ区の方が少なく推移し、イナズマヨコバイも同様であった。すくい取り法ではツマグロヨコバイが優占し、イナズマヨコバイの採取には払い落とし法で比較的容易であった。

ダントツ箱粒剤を使用することでイナズマヨコバイの発生量を抑えることが確認されたが、（効果は限定的で）発生が多い年には収量や品質低下を防止するため本田防除が必要となる可能性がある。イナズマヨコバイはツマグロヨコバイと異なり、すくい取りや見取り調査では発生を確認しにくく、株元にいるイナズマヨコバイを採取しやすい調査法（払い落とし法など）による発生量の把握が効率的である。